

情報連絡員報告・7月分

製造業の「売上高」、「業界の景況」のDI値、大幅に好転

< 東京都中央会 >

7月の情報連絡員報告によると、前月は大幅に悪化した製造業の売上高は約20ポイント、業界の景況は約15ポイント好転した。対照的に非製造業の業界の景況は約14ポイント、売上高は約8ポイント悪化した。

特記事項からは長雨、大雨の影響による野菜の価格高騰、花火の売上減少、来客の減少、エアコンの販売不振等の報告がよせられた。

製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

特記事項欄より

「食料品」

- ・梅雨の極端な長続きと高温多湿な天候が続く中で、お中元商戦は低調だった。野菜類の高騰は購買力の低下をまねき、売上が減少した。（水産食料品製造業）

「繊維・同製品」

- ・昨年と正反対の記録的な長雨の影響により、天候に左右される帽子業界は大打撃を受けた。昨年好調だった秋冬物に期待している。（帽子製造業）

「卸売業」

- ・梅雨から続く天候不順で、業況好転せず。クールビズは全体として低調な業績で推移し、ニットに関しては期待はずれに終わった。（織物卸売業）
- ・ビニールプール、浮き輪に代表される

水物や花火の売上が天候不順により、前年度を大きく下回り、低迷する玩具業界は追い打ちをかけられた状態となり、苦しい経営を強いられている。

（玩具卸売業）

- ・取扱金額が前年対比111%となりましたが、西日本の長雨のため、品不足による高値になっただけで、品物が数量的によく売れた訳ではない。野菜の高値により売掛金がふえ、資金繰りが苦しくなった。（野菜卸売業）

「小売業」

- ・7月は日照不足の日が多かったので、農作物が高値に移行したが、安価で固定価格の豆腐類は消費拡大にならず、逆に減少している。（豆腐小売業）
- ・天候不順、大雨の影響で野菜類全般に

高値で、特にネギ・葉物が品不足で異常高騰した。果実類も日照不足により甘味が薄く、売上が伸びず、厳しい7月だった。 (野菜・果実小売業)

・異常気象による日照不足が続き、野菜の価格が高値で推移しているため、消費者の動向として価格の安定している冷凍食品の購入が増加しているように思われる。 (野菜・果実小売業)

・北海道産や青森産米といった低価格米が値上りして苦労しています。平成18年産米の新米の時期となりますが、生育の遅れと品質の面が懸念されます。 (米穀小売業)

・長雨に見舞われ、店から客足が遠のいた。原油の値上りでガソリンの値段も

いもづる式に高騰している。これに加えて各メーカーが値上げを切り出してきた。消費者の購買意欲に陰りがささなければよいが..... (文具小売業)

・天候不順によるエアコン販売不振とワールドカップ後の大型テレビの単価ダウンで前年割れ (電気機械器具小売業)

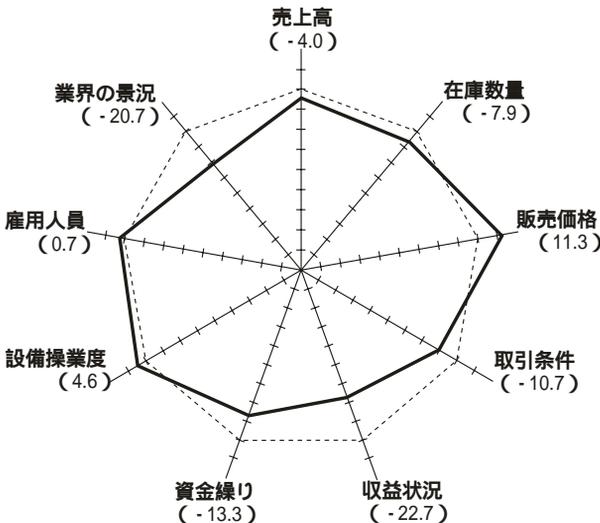
< 要望事項欄より >

* 業界の問題点の一つである「部活動の衰退・減少」に歯止めをかけるように、「部活動も教育」を国として進めてほしい。 [スポーツ用品製造業]

* 輸入野菜を増やして、国内野菜の相場を安定させてほしい。

[野菜・果実小売業]

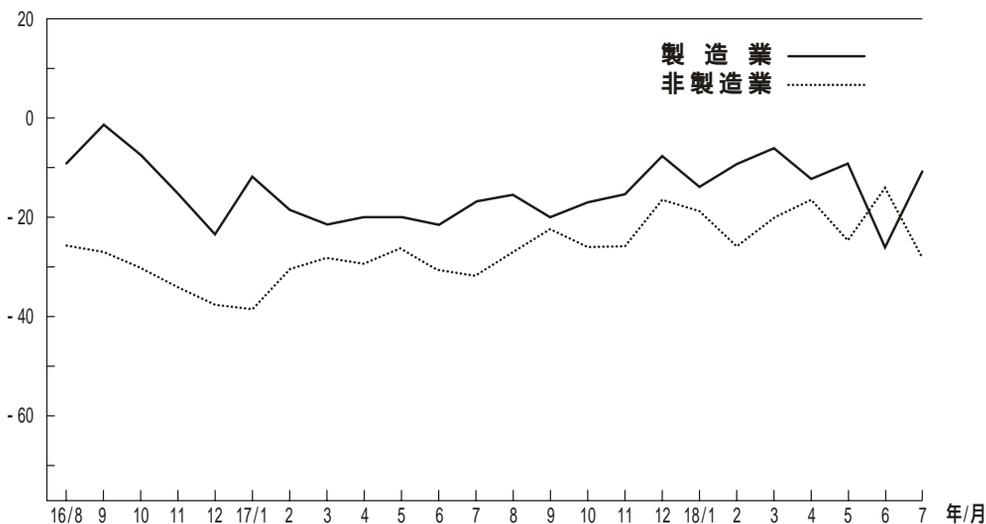
7月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)



(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

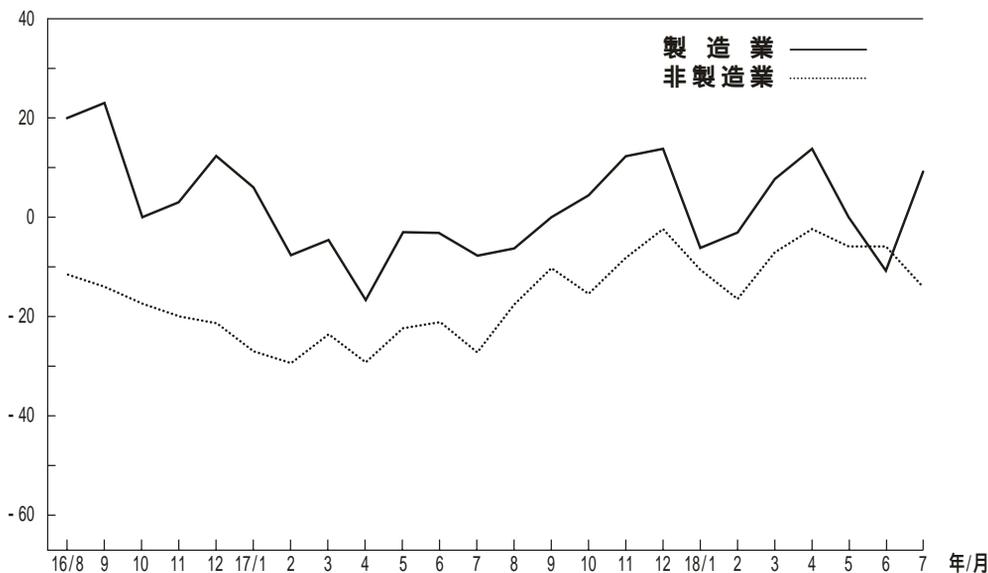
業界の景況DIの変化（H16.8～H18.7）

（前年同月比）



売上高DIの変化（H16.8～H18.7）

（前年同月比）



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。